

提言第6号 栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析

事例5

< 事例概要 >

- ・統合失調症、脳梗塞、誤嚥性肺炎の 70 歳代の患者。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 無。
- ・食事摂取量の低下、末梢静脈ルート確保困難のため、栄養剤投与目的に胃管を挿入した。BMI 不明。
- ・嚥下機能低下。
- ・看護師が胃管を挿入し、白湯の投与開始から 10 分後、喘鳴が聞かれた。口腔内で胃管がとぐろを巻いていたため、抜去して再挿入した。内容物の吸引と気泡音を確認し、投与を再開した。1 時間半後、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）が低下し、酸素投与などを行ったが、不安定な状態が続いた。2 回目の白湯の投与完了時、患者の様子に変化はなかった。その 1 時間後、呼吸状態が悪化し、心電図異常も認めたため、転院となった。搬送途中で心停止となり、同日死亡した。